

THE WEEKLY NEWS OF FUTTSU CITY

ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT 2790 ORGANIZED :Nov.20,1991

国際ロータリー第2790地区 富津シティロータリークラブ 創立 1991/11/20 RI加盟承認 1992/1/13

2018～2019 年度
R.I 会長 パリー・ラシン

Office:20-1, Shintomi, Futtssushi, Chiba
TEL:+81-439-80-2525
Meeting Place
Futtssu club, at 12:30, Wednesday
at 18:30, Last Meetings



インスピレーションになるう

2018～2019 年度
富津シティ RC 会長 椎津 裕貴

例会場/新日鐵住金(株)技術開発本部 富津クラブ
千葉県富津市新富 20-1
TEL/0439-80-2525
事務所/新日鐵住金(株)技術開発本部 富津クラブ
千葉県富津市新富 20-1
TEL/0439-80-2525
例会日/12:30~13:30(水曜日)
最終例会/18:00~19:00

第2790地区ガバナー	橋岡 久太郎(佐倉中央 R.C)
第5グループガバナー補佐	吉野 和弘(君津 R.C)
富津シティ R.C 会長	椎津 裕貴
副会長	高木 一彦
幹事	遠藤 和夫
SAA	宮崎 晴幸



会長



副会長



幹事



SAA

No. 1286 第24回 例会 2019年1月9日(水) 晴れ

【点鐘】椎津 裕貴 会長

【SAA】宮崎 晴幸 会員

【ソング】君が代、奉仕の理想

ソングリーダー/高木 一彦 副会長



【会長挨拶】椎津 裕貴 会長

皆さん、こんにちは、そして明けましておめでとうございます。新年最初の例会ですね。年末年始は、いかがお過ごしでしたでしょうか。私の年度も、半分終わった所で、そして、これから、半年が始まろうとしております。今年も宜しくお願い致します。今月は、川崎マリーンRCとの川崎大師合同例会、家族例会もあり、イベントが続きますが、我々も、気を引き締めて、ロータリーを盛り上げていきましょう。又、本日は、本来なら、年男の卓話を行っているわけですが、今年、その年男がないということなので、執行部で、いきたいと思います。先月、次年度の役員発表も出来なかったため、本日、高木次年度会長予定者をお願いしております。それでは、本日も宜しくお願い致します。



【幹事報告】遠藤 和夫 幹事

袖ヶ浦 RC,木更津 RC より週報が届いておりますので回覧致します。

国際ロータリー第 2690 地区、地区ガバナー末永範彦様より平成 30 年 7 月西日本豪雨被害義援金の御礼が届いておりますので回覧致します。

橋岡ガバナー年度第 2 回初詣ツーリングのご案内が届いておりますので回覧致します。

国際ロータリー日本事務局経理室より 2019 年 1 月 RI レートのお知らせが届いておりますので回覧致します。

ガバナー事務所より RLI パート I の開催ご案内が届いておりますので回覧致します。

以上、よろしくお願ひいたします。



【誕生祝】伊藤 充教 会員

12月26日



【お客様】佐々木敏郎会員より小川俊満様に引き継ぎ、よろしくお願ひいたします。



【卓話】

平成31年年頭所感 椎津 裕貴 会長

1/7（月）から、仕事をしておりましたが、喉が痛いなまずいと思ったのですが、幸い、今日は、完調です。昭和38年8月生まれのうさぎ年です。うさぎはかわいいので、気に入っている干支です。今年で56才ですが、私の父は務め人でしたが、55才で定年退職したのですが、今の自分を考えると、その時の気持ちは、どうだったのかなと思います。余生を考えると、まだまだという気がしますが、今と昔では、社会も変わり、環境も変わっていると思います。ロータリークラブに入会して、今年で、25年になります。もちろん、今でも、ロータリークラブについては、全てを理解しているとはいえませんが、最初は、何もわからず、毎回例会に参加しているだけでした。その頃は、会員も30～40名近くいらしゃったので、いずれは、会長、幹事の仕事が回って来るのだろうけど、未だ未だ先だなあと漠然と考えていたのですが、この期間に会長、幹事職を務めさせて頂きました。もちろん不十分だったかと思いますが、何とか、会員の皆さんの協力のもと、次の会長、幹事にバトンタッチする事が出来ました。この間。ロータリークラブも変化して来ている様に思います。人それぞれ受け取り方が違うのですが、私を感じているのは、人1人1人の取り組み方、ロータリーの組織としての働き方、考え方は、やはり変わったのかもしれない。ただ、富津シティRCの活動に関しては、それ程大きく変わってない様にも思います。会員数の減少は、切実ですが、決してはずかしくないものであると思います。もちろん、マンパワーというものは、必要だし、それを求めて、会員増強していかなければなりません。会員数に応じて、内容が、半分になったとか、3分の1になったという事がないと、感じております。この点に関しては、皆さんも臆する事なく、胸を張っていきましょう。唯一、以前と比べて感じるのは、プログラムの変化です。入会した頃は、月に2～3回は、外部卓話の講師を招いて、卓話の時間をとっていたのですが、今は、年に数回あるかどうかです。もちろん、これはこれで良しとすべきなのですが、その頃は、毎回楽しみ、話を聞いていました。予算の問題等のあり、今では富津シティに限らず、それ現実だと思えます。その頃は、プログラム委員長が、毎回手配してたようで、自分は、会長、幹事は出来たとしても、プログラム委員長は、出来ないなと思った事を、覚えております。未だ未だ我々には、課題は多いですが、この先も出来る限り協力し合い乍ら頑張っていきたいと思えます。以上、とりとめなく話しましたが、私の年頭所感と致します。



遠藤 和夫 幹事

「未来をひらく」佐藤敏郎●小さな命の意味を考える会代表、スマートサバイバープロジェクト特別講師

平成23年3月11日の大震災で、石巻市立大川小学校では全校生徒108名中、74名の児童が死亡あるいは行方不明となりました。教員も10名が亡くなっています。

108名といっても当日欠席、早退、保護者が引き取りに来た児童がおり、最終的に校庭にいた児童は70数名で、4名だけが奇跡的に助かりました。教職員も助かったのは1名だけです。

学校管理下で、このような犠牲を出したのは大川小学校以外にありません。大川小より海に近い学校はっもちろん、もっと海から遠い、上流の学校や保育所も逃げています。



震度6強というそれまで体験したことのない強い揺れが3分も続いた後、大津波警報が発令され、防災無線やラジオ、市の広報車がさかんに避難を呼びかけていました。その情報は、校庭にも伝わっていて、子どもたちも聞いていました。

体育館裏の山はゆるやかな傾斜で、椎茸栽培の体験学習も行われていた場所です。迎えに行った保護者も「ラジオで津波が来ると言っている。あの山に逃げて」と、進言しています。スクールバスも待機していました。そして「山に逃げっぺ」と訴える子ども達。

校庭で動かずにいる間に、津波は川を約4km遡り、堤防を超えて大川小を飲み込みました。15時37分、地震発生から51分、警報発令からでも45分の時間がありました。

子ども達が移動を開始したのはその1分前、移動した距離は先頭の子供で150mほどです。なぜか山ではなく、川に向かっています。ルートも、狭い民家の裏を通っています。しかも、そのまま進めば行き止まりの道です。時間的に、最初の波で堤防から水があふれた後の移動開始です。津波がきたのでパニックになったと言えます。

時間も情報も手段もあったのに救えなかった、危機感を感じていながら「逃げろ」と強く言えなかったのはどうしてかを議論しなければなりません。どうして組織が昨日しなかったのかです。あの日から、自分自身に言い聞かせている、重い言葉です。

守るべき命、しかも守ることが可能だった命を守れなかった事実から目を背けてはいけません。警報が鳴り響く寒空の下、校庭でじっと指示を待っていた子供たちに耳を澄まし、目を凝らせば、方向性は見えてくるはずです。

誰も悪意を持っていたわけではありません。でも、救えなかった、それはなぜかを、先生方のためにもきちんと考察したいと思っています。先生方は、黒い波を見た瞬間、「ああ、〇〇すれば良かった」と後悔したはずです。その後悔を無駄にしてはいけません。学校という組織が本来の目的に向かうための議論につなげていくつもりです。

学校だけではなく、私たちの周りには様々な概念、価値観、システムを見直すことは、東日本大震災で、現代社会が突き付けられた宿題のような気がします。その宿題は、情報や物が氾濫する一方で、多忙感、閉塞感が蔓延し、本質的な豊かさが失われつつある我国の方向性にも影響を与えるほどの意義を持つように思います。子供たちの命を真ん中にして、誠意をもって向き合えば、はじめはかみ合わなくても必ず方向性は見えてくると私は今も信じています。

現在、私たちは関心を持って下さる方々と、「組織の意思決定やあり方」「命の大切さ」「命を預かる意味」「心のケア」などをテーマとしたワークショップや、授業づくりに取り組んでいます。

東日本大震災では多くの尊い命が犠牲になりました。その命に意味づけをするのは、生かされた私達の役割です。

大川小の校歌には「未来を拓く」というタイトルがつけられています。

大川小学校は、始まりの地です。もう一度、命の大切さやよりよい学校のあり方を確かめる場所であるべきです。小さな命たちが、未来の為の大切な意味を持たたとき、私たちの向かう方向で、あの子たちがニコニコ笑っている気がします。

震災から7年10か月になりますが、国内外の多くの皆様が我が事として考え、祈り、そして応援してくださいます。報道や、学者の方々からも貴重なご意見をいただいています。ほんとうにありがたいことです。これからもどうぞ宜しくお願い致します。

(2015. 3. 14 第3回国連防災世界会議にて)

高木 一彦 副会長

明けましておめでとうございます。

次年度の役員を暫定ですが、発表させていただきます。



会 長	高木 一彦
副 会 長	遠藤 和夫
(富津シティロータリークラブ内での役職)	
会長エレクト	渡辺 敏
幹 事	宮崎 晴幸
S A A	窪田 謙
会 計	立石 泰之
クラブ管理運営	和田 充敏
奉仕プロジェクト	伊藤 允教
会員増強退会防止	小倉 博人
I T広報公共	東 清三郎
直前会長	椎津 裕貴

以上のメンバーで考えております、まだ暫定ですので後程個々にお問い合わせに上がりたいと思っています。

続きまして、新たにやってみたいと思っている事業についてお話させていただきます。
昨年もちよっとお話させていただきましたが、会津地方のロータリークラブと富津のロータリークラブとの交流を実現したいと思っております。

なぜ、会津地方のロータリーとの交流なのかともうしますと、幕末の江戸湾防衛に会津藩士が富津市の竹岡地区と飯野藩に来ていた時期がございました。そして、戊辰戦争の時に飯野藩士20名が請西藩主林忠崇軍に加わって新政府軍と抗戦、剣術師範の森要蔵は門弟28名と会津に向かい白河口雷神山の戦いで戦死しました。その森要蔵の慰霊祭が福島県の西郷村にて昨年行われ、私も出席してきましたのですが、その時の懇親会の席で向かいに座った方が白河ロータリークラブのメンバーで草野さんという方だったのですが、奥さんが富津市の豊岡出身だということで、歴史的にも繋がっている富津市と会津地方のロータリークラブの交流が出来たら良いねという話になりました。

また、「富津会津架け橋隊」という団体を立ち上げ活動している多田つよしさんという方ともお話させていただきましたが、会津の方々が富津市内の会津藩士の法要に訪れた時も富津市の方々は無関心で会津での歓迎ぶりを見ると対照的なのが残念だそうです。私も、富津市の議員が初めて来てくれたということで歓迎を受けました。先ずは、6月に会津の方々が富津に法要に訪れるということですので、そこでお出迎えをする事から始め、来年の5月に行われる会津の式典で交流が出来ればと考えております。

※補足：後に森要蔵の孫にあたる野間清治が出版社の講談社を設立し、社員教育に剣道を奨励し野間道場を設立、飯野にも野間館という道場を建設し、現在でも富津中学校の武道場にて野間会として地域の子供達の健全育成を支援している。

【委員会報告】

クラブ管理運営委員会

東 清三郎 委員長

1月16日チャリティ新年家族例会について



奉仕プロジェクト

秋山 和彦 委員長

宮城訪問について



クラブ管理運営委員会

小川 俊満 会員

1、2、3月プログラムについて



ニコニコBOX/三井 徹 会員

本日のニコニコBOX	¥14,000
累計金額	¥167,000



出席率/立石 泰之 会員

例会数	会員数	出席	欠席	MakeUp	出席率
1285	15	10	6	0	67%
1286	15	15	0	0	100%



【点鐘】椎津 裕貴 会長